瀋陽だより

2016 年 3 月

報告者：東北育才学校
高井　奈央子

取捨選択の裏側

以前、東北育才学校が日本のテレビ番組で紹介されたことがあったそうです。幸いなことに同僚の方がその番組録画を所持していらっしゃったので、高校 3 年生の生徒たちに見せて感想を求めたことがありました。

動画の内容は、育才学校の生徒たちが起床時から就寝時まで勉強していること、東大をはじめ日本の有名大学に多数合格していること、休み時間は国旗掲揚と行進訓練を行っていることという構成でした。

この内容は確かにその通りなのですが、これを見た生徒たちは困惑して言いました。

「確かに私たちは休み時間に行進訓練をしているけど、そればっかりじゃない。」

その通りです。日本の高校生と同様に、休み時間には購買へ行ってちょっとしたお菓子を買って友達と笑いながら食べたり、バスケットボールを楽しんだりしています。

「優秀な人ばっかり画面に映っている。」

彼らは皆、驚くほど日本語が上手ですが、テレビに登場するのはその中でもとびきり上手な生徒ばかりで、これでは全員がこのレベルなのだと勘違いされかねません。

「日本人は、詰め込み型の教育をよく思っていないから、比較対象として育才学校の特定の部分だけを取り出したのではないか。」

大変鋭い意見だと思います。「朝から晩まで勉強漬けで、軍事訓練も欠かさないエリート教育」という話題を作り上げ、そのイメージを固定化・増幅するために他の情報が切り捨てられた可能性は大いにあるでしょう。

その情報自体は間違いではないけれど、他の周辺情報を削除することによって特定の方向性を与えるという手段は世界中に溢れています。そして、削除された情報の方が遥かに多いということも珍しくありません。出された情報を理解するだけではなく、削除された情報を探し出した上で比較検討する力が求められる時代です。

彼らにはその力があります。育才学校の生徒とは今月でお別れですが、きっと世界レベルで活躍する人材になることでしょう。

中学部による日本文化紹介

中学３年生の生徒たちが、同じ育才学校の生徒たちを対象に日本文化の紹介を行いました。

茶道やお辞儀の角度と丁寧さについての説明から始まり、手塚治虫をはじめとした日本のマンガ文化と現代のサブカルチャーまで幅広くカバーした内容で、他の生徒たちも興味深そうに話を聞いていました。

言語だけでなく、その国の文化や歴史も勉強の対象となっていることがよくわかるイベントだったと思います。

では日本で、このように英語以外の言語と文化を勉強できる中学校や高校はどれほどあるでしょうか。少なくとも私の知る範囲ではありません。もしかしたら日本は、相手側（特に英語以外の言語圏）が日本語を勉強してくれることに頼りすぎているのかもしれません。

場所にもよりますが、日本と中国は飛行機に乗れば３時間程度で行き来できる距離にあります。日本における中国語の扱いは、日中関係の重要さに釣り合ったものになっていないのではないでしょうか。

これはごく一部しか知らない私の感想ですが、杞憂であってほしいと思います。

温州城

中国で買い物をするなら卸売市場がお勧めです。五愛市場は服飾専門の卸売市場として有名であり、ガイドブックにも出ていますが、実は瀋陽駅近くにも「温州城」という大きな卸売市場があります。

中国滞在中、私は寮から徒歩 20 分程度で行けるこの市場で何度か買い物をしました。

A 楼と B 楼の二つのビルからなる建物内部には、様々な商品を売る店のブースが並んでいます。お茶を買うならスーパーやデパートよりも、ここの方が遥かに安くて美味しいものが手に入ります。

親切なお店は、まず「座って。お茶をちょっと飲んでいきなさいよ」と無料でその店お勧めのお茶を試飲させてくれます。「あの箱のお茶を飲みたい」「もうちょっと安いものが良

い」と言えば、それも試飲させてもらえますし、茶葉の種類に応じた淹れ方も教えてくれます。お店によって目玉商品が違うので、烏龍茶が欲しい時は烏龍茶をたくさん扱っている店に入れば、まず間違いなく美味しいお茶に出会えます。

花や果実のお茶を専門に扱う店もあり、私が外国人だと分かるとお茶の種類と効能一覧表を渡してくれました。「これと、これと、これ。50 グラムずつ」と言えばその通りに袋詰めしてもらえます。

他にもナッツ類やドライフルーツ、お菓子、ナマコ（薬のような扱いをされているようです）など、フロアごとにジャンル分けされているので外国人にも分かりやすいでしょう。

看板は「中国食品城」となっていますが、服飾や寝具の取り扱いもあります。

その服飾コーナーの中に、チャイナドレスや洋服をオーダーメイドしてくれるお店も入っています。

手順としては、以下の通りです。

1. 専門店で採寸してもらう。
2. 布の卸売市場へ行って、必要な布を買う（省略可。採寸したお店で購入することもできます）。
3. 店にあるサンプル本から好きなデザインを選ぶ。
4. 会計を済ませ、約束の日に取りに来る。
5. その場で試着して修正してもらう。
6. 手直しされた服を再び取りに来る（簡単な調整であれば、試着した時にやってもらえます）。

記念にチャイナドレスをつくっていく外国人もいれば、ホテルの制服のオーダーを受けることもあるそうです。日本の既製服だと体にぴったり合うものが無い、という人は記念にこういう所で作ってもらうのもいいかもしれません。

必要日数は 2 週間程度なので、なかなかそのような機会はないとは思いますが、交渉次第で短期間でできるものもあるかもしれません。

このように「温州城」は大変魅力的な卸売市場なのですが、残念なのは、中国のデパートと同様に館内マップが無いので、どこに何の店があるのかを地図で把握することが

できないことです。私は方向音痴なので、2 回目に行った時に、前回と同じ店にたどり着けずじまいということがよくあります。気に入った店に出会ったときは、その店の名刺（店の区画ナンバーが書いてある）を貰っておくと迷子防止に役立ちます。

尚、この近くには眼鏡専門の卸売市場もあります。眼鏡を安く作りたい、或いはフレームを新調したいという場合は、足を運んでみると気に入った品が見つかるかもしれません。

信仰と生活

春節前の夜になると、街角で火を燃やす光景に出くわすことがあります。これはただのたき火ではありません。「冥銭」と呼ばれるお金を燃やして死者の世界へ送ると同時に春節を祖先と一緒に過ごすための大事な儀式です。

春節を過ぎても、同様の儀式をやっていることがありますが、その場合は「春節という楽しい時間を過ごしていても、先祖のことを忘れていません。いつもありがとう」という気持ちを表すものだそうです。

瀋陽は地下鉄が走り、15 分待てば次のバスが来るような大都会ですが、昔ながらの信仰が今なお残る街です。

また、清王朝時代に作られた寺院も数多く残っています。中街にある長安寺もその一つで、多くの人でごった返しているというわけではありませんが、常に絶え間なく参拝者がいるお寺です。

太い線香を 3 本持ち、四方に礼をしたのち壇に挿して本殿へ向かうと、額を地面につけて熱心にお祈りする人々の後姿が見えました。

若い人も、年配の人も、特別な日ではなくても、祈りたい時に祈る。信仰は日常の中に自然に存在しています。

中街は高級デパートや貴金属専門店が立ち並ぶ繁華街ですが、ビルの谷間にぽっかりと空いた場所にある長安寺だけは不思議とそういった喧騒から切り離されていました。ここではゆっくりとした時間が流れ、消費第一の風潮に染まらない空気が残ったままなのです。